

令和7年度 三郷市学校評価システム 本評価:学校関係者評価シート

評価項目	評価項目 No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え
組織運営等の状況	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。★	3.54	3.82	三郷市全体で目標として掲げる「令和の日本型教育」を推進しているため、教育目標やめざす児童像に迫るよう職員が組織的に教育活動を進めている。
	2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の経営にあたっている。	3.54		学校行事や各教育活動前には、教科・領域等の主任を中心に、各部会で役割分担し実施している。実施後の反省をしっかりと行い、改善策を講じて次年度への実施に生かすようにする。働き方改革を考え勤務時間内で運営や準備ができるよう教育計画を見直し、確実なPDCAのもと学年・学級経営や分掌遂行に努める。
	3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.50		緑豊かな恵まれた環境にある中、環境に目を向け自然を大切にす児童の育成をめざし、栽培・飼育活動、体験学習に取り組んだ。地域の方の協力もあり環境整備が充実した。また、委員会等、担当以外の児童も進んで落ち葉掃き等を行った。
	4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り、「夢を育む教育」に組織的に取り組んでいる。★	3.42	3.64	学校長の掲げる鷹野教育重点8を中心に、児童が力いっぱい学習・運動・各行事等に向かうことで、夢を育む教育に取り組んだ。児童が達成可能な目標を設定し、達成する喜びを味わわせる機会を与えることができた。
	5	学校は、教職員の不祥事根絶をするための取組をしている。	3.75		毎月倫理確立委員会を確実に実施した。教職員一人一人が自分事として捉えられるよう輪番で研修を進めた。また、機会を捉え県の研修資料や新聞記事を活用し短時間研修を行った。さらに、学校運営委員の方にもご協力いただき、校内の防犯カメラチェックを行った。現在は教職員専任の研修で、今後も相違点や改善点があるよう研修の充実を図る。
	6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.17		昨年度に引き続き、国語科を通して研修に取り組んできた。個人、学年、学団で指導力向上に向けての研修を重ねた。教員の指導力を高めるために教材研究や授業準備にかけ時間の確保や年間を見通した研修計画の立案が必要である。
授業等の状況	7	学校は、ICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組んでいる。	3.33		
	8	学校は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、児童生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせている。	3.50		日々の授業や鷹野タイム、放課後マイペースを中心に国語・算数の基礎基本の定着を図ることができた。全国学力状況調査、埼玉県学力状況調査において、学力は確実に身につけてきた。全国や埼玉県の学力状況調査の結果を分析し、課題を把握し、授業や家庭学習で課題を克服した。
	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.54		毎学期「授業の心得週間」を設定するとともに、今年度は、校内研修時に「授業の心得チェックシート」を実施し、教職員の意識向上を図った。児童とともに目標設定を行い指導に当たり、児童のアンケート結果では全項目90%以上達成した。課題として、授業中の姿勢維持や登壇時の声の聞き取りが挙げられた。今後も全学年統一の指導力向上研修を行い、概ねの学級は、落ち着いた学習に取り組むことができたが、いくつかの学級は、支援が必要な学級があった。それらのクラスには、管理職や校外教員等が補助に入り、組織的に対応した。今後もまずは始業前の学習環境を整え、授業を開始することを徹底し、全教職員が授業に集中し、児童の学びの場を充実させることに努める。
	10	学校は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。★	3.33	3.27	貸出冊数年間一人100冊の目標に取組み、一人平均貸出数は11月現在ですでに80冊達成している。レファレンス数については年間350件を目標とし、11月現在285件達成。今年度も目標数値の達成を目指して、各学級で取り組んでいく。
	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。★	3.63	3.73	鷹野タイムに読書を位置づけ、15分間の読書に集中して取り組むことができた。読み聞かせボランティアの方や教員による読み聞かせ、ブックマスターによる読み聞かせ等、読み聞かせが充実している。
	12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。★	3.54	3.91	栄養教諭による食育の授業を行っている。また、栄養教諭が給食の時間に児童の食事の様子を観察し、必要に応じて、栄養指導やメニュー指導を行っている。また、児童の給食に関する意識を高めるために、給食アンケートを行っている。今後は、アンケートから分かることや、児童の食生活の改善に向けての指導に努める。
生徒指導の状況	13	学校は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.46		どの学級も道徳の授業は大切に授業を行っているが、今後はより授業で学んだことが実生活の中で実践できるよう指導していく。今後も道徳の授業について、保護者や地域の方々に授業を公開、内容を発信していく。
	14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。★	3.54	3.91	全教育活動の中で道徳性を養うために、全体計画を見直す。道徳授業だけでなく、他教科・領域においても道徳的な判断や心情を育てる教育活動を行っていき、実践力を高めている。
	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育の改善に取り組むとともに道徳教育を積極的に推進している。	3.29		正しいことは褒め、「間違っていることは間違っている」と毅然とした態度で指導していく。「鷹野小よい子の1日」を家庭にも配付し、家庭でも確認、協力をいただきたい。規範意識を高めるためにも、「鷹野小よい子の1日」が児童の実態に沿ったものになっているのを見直し、児童の生活に合わせた指導に努める。
	16	学校は、教育活動全体を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に努めている。	3.21		校内では元気づけ気持のよい挨拶ができる児童が多いが、登校時や来校者に対しての挨拶は、昨年度からの課題である。今年度は、全校集会での校長講話や各学級の指導から少しずつ改善が見られる。今後も全校で挨拶運動に取り組めるよう生徒指導部や児童会が連携して取り組んでいく。
	17	学校は、教職員が自ら手本となり、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.29		児童に対して「～さん」と呼ぶことを徹底していく。教員の言葉遣いがそのまま児童の言葉遣いにつながるため、大人として正しく丁寧に言葉遣いをしていく。場に応じた言葉遣いができるよう、普段から言葉を選び活用できるよう指導するとともに語彙を増やす指導も行っていく。
	18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるように指導している。★	3.50	3.37	児童や家庭の様子を把握し、問題行動や不登校児童についてケース会議を開き対策を考えたり、関係機関と連携し情報共有したりしながら指導に当たっている。また、生徒指導、教育相談部会を毎月開き、情報交換を行い、教職員同一歩調のもと指導を行っている。
家庭・地域との連携状況	19	学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.29		長期欠席児童や不登校児童、生徒指導上の問題に対しては、保護者と連携を取りながら関係機関を含め組織的に対応している。保護者に対しては早期に連絡を入れ、丁寧な対応を心がけている。
	20	学校は、児童生徒の不登校や問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.42		いじめに対するアンテナを高くするとともに、報告・連絡・相談を確実なものにする。児童対応についても双方からの聞き取りを丁寧に行い、組織的に対応する。いじめを未然に防ぐためにも、学級や学年の所属感を味わえるような学級・学年づくりに努めていく。
	21	学校は、保護者(必要に応じ関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.54		その時々事故やトラブルに際したマニュアルになるよう見直しを図っていく。マニュアルに沿って組織で対応できるよう教職員の意識を高めるために研修する機会を設定していく。
	22	学校は、いじめの早期発見、早期対応に努めている。★	3.54	3.46	毎月安全点検を実施し、安全副主任が修繕箇所を安全点検簿に記入報告している。管理職が点検簿、修繕箇所を確認し修繕が必要な場合は早期に業者に修繕依頼し対応した。安心安全な学校づくりを目指し、避難訓練を計画的に実施した。年度当初には避難経路や避難行動を全教職員で確認し、共通理解・共通行動の徹底を図った。
	23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.42		担任が各清掃場所を巡回し指導に当たっている。もくもく清掃に取り組んでいるが、目が届かなくなってしまうと話しながら清掃している児童もみられる。多くの教員の目でもくもく清掃の徹底を図っていく。
	24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。★	3.46	4.00	時間外勤務時間は減っているが、教材研究や行事に対応するための話し合いの時間の確保にはまだ課題が残る。教員一人の業務負担減少には繋がっていない。今後も教育計画の見直しを早急に進め、必要なものを残す教育計画を作成していく。
家庭・地域との連携状況	25	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。★	3.21	3.18	学校行事、学年行事等をホームページでほぼ毎日発信することができた。児童の活躍の様子をタイムリーに発信することを心がけてきた。
	26	学校は、組織的に働き方改革を進めている。	3.29		「親の学習」は、就学前の保護者向けに実施することができた。今後も継続的にPTAと協力し「親の学習」の機会も増やしていきたい。学校応援団の方々には、環境整備や読み聞かせ、登壇の見守り等でお世話になった。応援団の人数の確保が今後の課題である。
	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報を発信している。★	3.58	4.00	運動会や鷹野まつり等PTAと協力し進めることができた。地域行事へ児童が参加できるよう、地域との情報交換の機会をつくり、地域交流へと繋げていきたい。
	28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校応援団の活用を図っている。★	3.50	3.91	
	29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。★	3.50	3.91	

★マークが付いている評価項目については、必ず学校関係者評価を実施する。